

## 宗門の支援活動に企業も協力

### オリックスが 車を無償提供

ボランティアへの情報発信や物資提供の受付窓口として、東日本大震災支援の活動拠点となっている東北、東京両教区の現地緊急災害対策本部には、宗門の活動を知った一般企業などから協力が相次ぎ、支援の輪が広がりを見せている。

東北教区災害ボランティアセンター（仙台別院内）には先頃、「物資の搬送などボラン



### LED電球 1200個

ですけど、お役に立ちますように」とメッセージが添えられた。

### 福島の物産品 大学生が販売

龍合大

東京教区現地緊急災害対策本部（築地別院内）には5月19日、電化製品などを製造・販売するメッツ・エンタープライズ（大阪市・岡本鶴三社長）から支援物資としてLED電球1200個が届けられた。寺院の照明などを扱う同社が、「東北に情熱を届けたい」と福島県などで被災地支援を行う同対策本部に物資の搬送を委託したものの、梱包された箱には「ほんの小さな灯火

宗門校・龍合大学（赤松徹真学長）のボランティア・NPO活動センターは、東日本大震災復興支援プロジェクトとして京都と滋賀のキャンパスで福島県の物産品販売を開いた。

同センターの高田英彦所長は「移動や運搬のために車両は不可欠。フル回転で活用させていただき、大変助かっている」と話している。

同大学は「それぞれの日から3日まで京都の事情や立場にあった貢献を、全学をあげて行っていきたい。6月からは、学生・教職員の現地でのボランティア活動を行っていく」と語っている。

このほか、北海道や東海、奈良の各教区などからボランティアで訪れた僧侶らが「後続のスタッフに」と同センターに軽トラックや乗用車を寄贈しており、継続的な支援に役立てられている。

「喜多方ラーメン」「いわき市の漬物」など20点ほどの物産品を学生90人がボランティアで販売。一般紙に取り上げられ、近隣の住民も多く訪れた。

販売員を務めた大久保利英さん（4年）は「地元が福島。少しでも貢献したかった。被災地のために何かしたいという気持ちを多くの人々が持っていたと感じた」と語っていた。